

教育・保育の「量の見込み」

教育・保育 1～3

4月1日現在（認可保育園在園児＋保留児童）

1 「3号認定（0歳児）」

制度における事業の概要	（認定こども園及び保育所＋地域型保育） 満3歳未満の子どもであって、家庭において必要な保育を受けることが困難であるもの		
対象者	0歳児：保育の必要性あり		
算出方法	根拠	ニーズ調査集計及び国の手引き	調査（就学前） 問16
	<p>問16（平日定期的に利用したい教育・保育の事業）に回答した者のうち、問16で「3. 認可保育所（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員20人以上のもの）」から「11. 居宅訪問型保育（ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）」のいずれかを選択した者の割合（但し、無回答を除いて割り戻す）を算出する。</p> <p><戸田市の算出方法> 量の見込みは、実績値よりも大幅に上回る数値になっています。これは、国の算出方法には育休取得者数が反映されていないためと考えられる。 ただし、国の手引きには留意事項として、育休取得者数を見込み量から差し引き、育休明けの利用意向率調整をする方法（1歳以降に教育・保育を利用したい、と考えている人を除外）が記載されている。この方法を採用しても本市の場合、乖離が大きく、過年度実績（30年度の利用率20.8%）を推計年度の児童人口に乗じる方法とした。</p>		

<国の算出方法>

(人)

	量の見込み					過年度実績			
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全市	1,040	996	993	990	988	221	280	301	291

<戸田市の算出方法>

	調整後の量の見込み				
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
全市	330	316	315	314	314
確保方策	364	364	364	364	364
差異	34	48	49	50	50

2 「3号認定（1、2歳）」

制度における事業の概要	（認定こども園及び保育所＋地域型保育） 満3歳未満の子どもであって、家庭において必要な保育を受けることが困難であるもの		
対象者	1歳児、2歳児		
算出方法	根拠	ニーズ調査集計及び国の手引き	調査（就学前） 問16
	<p>問16（平日定期的に利用したい教育・保育の事業）に回答した者のうち、問16で「3. 認可保育所（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員20人以上のもの）」から「11. 居宅訪問型保育（ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）」のいずれかを選択した者の割合（但し、無回答を除いて割り戻す）を算出する。</p> <p><戸田市の算出方法> 量の見込みは、実績値よりも大幅に上回る数値になっている。 また、育休明けの利用意向率調整をする方法は、3歳以降に教育・保育を利用したい、と考えている人を控除する方法の算出もしたが、乖離が大きく0歳児同様、過年度実績（30年度の利用率46.8%）を推計年度の児童人口に乗じる方法とした。</p>		

<国の算出方法>

(人)

	量の見込み					過年度実績			
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全市	1,773	1,802	1,795	1,786	1,780	1,075	1,265	1,364	1,431

<戸田市の算出方法>

	調整後の量の見込み				
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
全市	1,386	1,409	1,403	1,396	1,391
確保方策	1,386	1,409	1,403	1,396	1,391
差異	0	0	0	0	0

3 「2号認定（保育所利用）」

制度における事業の概要	（認定こども園及び保育所） 満3歳以上の小学校就学前の子どもであって、保護者の労働等により家庭において必要な保育を受けることが困難であるもの		
対象者	3歳以上のみ		
算出方法	根拠	二一ズ調査集計及び国の手引き	調査（就学前） 問16
	<p>問16（平日定期的に利用したい教育・保育の事業）に回答した者のうち、問16で「1. 幼稚園（通常の就園時間の利用）」から「11. 居宅訪問型保育（ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）」のいずれかを選択した者の割合（但し、無回答を除いて割り戻す）から、「2号認定（幼児期の学校教育の利用希望が強いと想定されるもの）」の割合を控除した割合を算出する。</p> <p><戸田市の算出方法> 過年度実績30年度の利用率（40%）を推計年度の児童人口に乗じる方法とした。</p>		

<国の算出方法>

（人）

	量の見込み					過年度実績			
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全市	1,901	1,753	1,747	1,767	1,826	1,433	1,628	1,670	1,811

<戸田市の算出方法>

	調整後の量の見込み				
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
全市	1,829	1,686	1,681	1,700	1,757
確保方策	2,114	2,114	2,114	2,114	2,114
差異	285	428	433	414	357

教育・保育 5

5月1日現在（幼稚園）

4 「1号認定」

制度における事業の概要	（認定こども園及び幼稚園） 満3歳以上の小学校就学前の子ども。（2号子どもを除く）		
対象者	3歳～5歳		
算出方法	根拠	ニーズ調査集計及び国の手引き	調査（就学前） 問16
	<p>問16（平日定期的に利用したい教育・保育の事業）に回答した者のうち、問16で「1. 幼稚園（通常の就園時間の利用）」または「4. 認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）」を選択した者の割合（但し、無回答を除いて割り戻す）を算出する。</p> <p><戸田市の算出方法></p> <p>過年度実績 27年度から30年度の平均利用率（57.5%）をもとに計画年度における母親の就労意向が高いことを考慮し、減じた利用率（年平均3%）を差し引いた54.5%を推計年度の児童人口に乗じる方法とした。</p>		

<国の算出方法>

（人）

	量の見込み					過年度実績			
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全市	2,126	1,960	1,953	1,975	2,042	2,698	2,593	2,497	2,462

【参考】

国の算出 1号認定（幼稚園利用）+2号認定（幼稚園利用）

（人）

	量の見込み					過年度実績			
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全市	2,538	2,340	2,332	2,358	2,438	2,698	2,593	2,497	2,462

27年度から30年度の平均利用率57.5%をもとに算出

（人）

	量の見込み					過年度実績			
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全市	2,492	2,298	2,290	2,316	2,394	2,698	2,593	2,497	2,462
確保方策	2,920	2,920	2,920	2,920	2,920	2,920	2,920	2,920	2,920
差異	428	622	630	604	526	222	327	423	458

地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」

1 放課後児童健全育成事業（学童保育室事業）

制度における事業の概要	保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後に小学校の余裕教室等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る事業。		
対象者	小学校に就学している児童		
算出方法	根拠	ニーズ調査集計及び国の手引き	調査（小学生） 問 27、問 28
	<p>低学年については、問 27（放課後の時間を過ごさせたい場所）で「6. 学童保育室（公立、民間問わず）」を選択した割合（但し、無回答を除いて割り戻す）を算出 高学年については、問 28（放課後の時間を過ごさせたい場所）で「6. 学童保育室（公立、民間問わず）」を選択した割合（但し、無回答を除いて割り戻す）を算出する。 ただし、「6. 学童保育室（公立、民間問わず）」の利用希望を選択し、かつ、6. 以外の選択肢も選択している者について、「6. 学童保育室（公立、民間問わず）」の利用希望が週1～2回程度であれば、各自治体の実情に応じて、当該者の割合を控除して算出することも可能とする。</p> <p><戸田市の算出方法></p> <p>28年度から30年度までの学年ごとの利用率を算出し、各前年度比において利用率が最も増加した29年度の3年生の利用率（前年度比2.8%増）を、30年度の学年ごとの学童保育室利用率に上乗せて算出した利用意向率を推計年度の児童人口に乗じる方法とした。（各学年3%増）</p>		

<国の算出方法>

（利用者数：人）

	量の見込み					過年度実績			
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	27年度	28年度	29年度	30年度
低学年	1,857	1,964	1,948	1,926	1,804	963	1,068	1,180	1,171
高学年	1,000	1,006	1,005	1,001	1,037	121	124	159	203

上段は1～3年生、下段は4～6年生 ※特別支援学級の児童を含めた数値

<戸田市の算出方法>

1年生 39.1%、2年生 36.1%、3年生 29.0%、4年生 18.5%、5年生 7.9%、6年生 5.3%

	調整後の量の見込み				
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
低学年	1,495	1,582	1,567	1,538	1,441
高学年	444	444	452	447	470
確保方策	2,067	2,174	2,174	2,174	2,199
差異	128	148	155	189	288

2 時間外保育事業（延長保育事業）

制度における事業の概要	保育認定を受けた子どもについて、通常の利用日及び利用時間以外の日及び時間において、認定こども園、保育所等において保育を実施する事業。		
対象者	2号認定こども（保育利用）、3号認定こども		
算出方法	根拠	国の手引きに基づいて算出	調査（就学前） 問 16
	<p>問 16（平日定期的に利用したい教育・保育の事業）に回答したもののうち、「3. 認可保育所（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員 20 人以上のもの）」から「11. 居宅訪問型保育（ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）」のいずれかを選択している。かつ問 15-2（2）（利用希望時間）で、「18 時以降」と記入してある場合の割合を算出する。（但し、無回答を除いて割り戻す）</p> <p><戸田市の算出方法> 過年度実績 30 年度の認定数に対する実績の割合（26%）を推計年度の認定数（量の見込）に乗じる方法とした。</p>		

<国の算出方法>

（利用者数：人）

	量の見込み					過年度実績			
	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
全市	2,901	2,782	2,772	2,781	2,822	538	740	780	902

<戸田市の算出方法>

	調整後の量の見込み				
	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
全市	922	887	884	887	900
確保方策	3,793	3,793	3,793	3,793	3,793
差異	2,871	2,906	2,909	2,906	2,893

3-1 一時預かり事業（幼稚園型）

制度における事業の概要	通常の教育時間の前後や長期休業期間中などに希望者を教育（保育）する事業。園により預かり保育の実施日、時間などの状況は異なる。		
対象者	幼稚園在園児		
算出方法	根拠	二一ズ調査集計結果	調査（就学前）
	<p><戸田市の算出方法> 過年度実績 30 年度から一人あたりの年間平均利用数（11.7 回）をもとに、1 号認定数（量の見込）に乘じる方法とした。</p>		

<国の算出方法>

（年間延べ利用者数：人日）

	量の見込み					過年度実績			
	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
全市						17,363	20,765	21,682	28,916

<戸田市の算出方法>

	調整後の量の見込み				
	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
全市	29,156	26,887	26,793	27,097	28,010
確保方策	29,156	26,887	26,793	27,097	28,010
差異	0	0	0	0	0

3-2 一時預かり事業（幼稚園型を除く）

制度における事業の概要	家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児について、主として昼間において、認定こども園、幼稚園、保育所、地域子育て支援拠点その他の場所において、一時的に預かり、必要な保護を行う事業。		
対象者	小学校就学前までの子どもで、通常保育の対象でないもの		
算出方法	根拠	国の手引きに基づいて算出	調査（就学前） 問 24
	<p>問 24（不定期事業の利用意向）に回答した者のうち、「1. 利用したい」を選択した者の割合を算出する。調査結果から①一時預かり、②ファミリー・サポート・センター、③トワイライトステイの年間平均利用日数を算出し、家庭類型別児童数に利用率と平均利用日数を乗じて見込みを算出する。</p> <p><戸田市の算出方法></p> <p>過年度実績との乖離が大きく、これは、本来利用する必要性が低いと考えられる2号認定（保育利用）や3号認定（0-2歳）による利用希望がそのまま反映されている。既に保育所を利用している方が、保育所の一時保育を利用する必要性がないと考えられる。そのため、30年度の1歳から5歳の合計児童人口から2号認定、3号認定（1,2歳児）数を差し引いたうえで算出した一人あたりの年間平均利用数（3.1回）をもとに、推計年度の1歳から5歳の合計推計人口から2号認定、3号認定（1,2歳児）数（量の見込み）を差し引いた数に一人あたりの年間平均利用数（3.1回）を乗じる方法とした。</p>		

<国の算出方法>

（年間延べ利用者数：人日）

	量の見込み					過年度実績			
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全市	87,768	85,524	85,213	85,196	85,837	15,462	15,682	15,479	13,415

（戸田市の算出方法）

	量の見込み				
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
全市	13,395	12,812	12,766	12,828	13,082
確保方策	30,156	30,156	30,156	30,156	30,156
差異	16,761	17,344	17,390	17,328	17,074

<戸田公園駅前子育て広場>

	2 年 度	3 年 度	4 年 度	5 年 度	6 年 度
確保方策	1,440	1,440	1,440	1,440	1,440

4 ファミリー・サポート・センター事業（子育て援助活動支援事業）

制度における事業の概要	乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の保護者を会員として、児童の預かり等の援助を受けることを希望する者と当該援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行う事業。		
対象者	小学生までの子ども		
算出方法	根拠	国の手引きに基づいて算出	調査 問 24、問 27・28
	<p>未就学児については、問 24（不定期事業の利用意向）に回答した者のうち、「1. 利用したい」を選択した者の割合を算出する。調査結果から①一時預かり、②ファミリー・サポート・センター、③トワイライトステイの年間平均利用日数を算出し、家庭類型別児童数に利用率と平均利用日数を乗じて見込みを算出する。</p> <p>低学年については、問 27（放課後の時間を過ごさせたい場所）で「7. ファミリー・サポート・センター」を選択した割合（但し、無回答を除いて割り戻す）を算出する。また、高学年については、問 28（放課後の時間を過ごさせたい場所）で「7. ファミリー・サポート・センター」を選択した割合（但し、無回答を除いて割り戻す）を算出する。調査結果から「ファミリー・サポート・センター」と回答のあったものの日数を算出し、推計児童数に利用率と平均利用日数を乗じて見込みを算出する。</p> <p>ニーズ調査による就学児の利用意向はなかった。これは、ファミリーサポート事業の現在の利用内容が学童や保育所の送迎が多い状況の中、設問が「放課後、子どもをどこで過ごさせたいか」という内容であったため、「利用したい」と回答する人がいなかったと考えられる。</p> <p><戸田市の算出方法></p> <p>27年度～30年度の実績値の増加率（1.3089277 倍）を基に量の見込みを算出し、その推計値と27年度～30年度の平均実績数（2,414 人）との平均をとった。</p>		

<国の算出方法>

（年間延べ利用者数：人日）

	量の見込み					過年度実績			
	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
未就学	87,768	85,524	85,213	85,196	85,837	2,117	2,292	2,476	2,771
就学	0	0	0	0	0				

（戸田市の算出方法）

	量の見込み				
	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
全市	2,878	3,021	3,207	3,394	3,581
確保方策	2,878	3,021	3,207	3,394	3,581
差異	0	0	0	0	0

5 病児保育事業（病児・病後児保育事業）

制度における事業の概要	病児について、病院・保育所等に付設された専用スペース等において、看護師等が一時的に保育等をする事業。		
対象者	幼稚園・保育所等に通っている子ども及び小学生		
算出方法	根拠	国の手引きに基づいて算出	調査（就学前） 問 22-1
	<p>【病児・病後児の発生頻度】</p> <p>問 22-1（病気やけがで事業ができなかった場合の対処方法）で、「ア. 父親が休んだ」「イ. 母親が休んだ」に回答した者のうち、問 22-2（病児・病後児保育等の利用意向）で「1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と回答した者と、問 22-1 で「オ. 病児・病後児の保育を利用した」「キ. ファミリー・サポート・センターを利用した」「ク. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた」と回答した者の合計を問 22 の回答者全員で割る。</p> <p><戸田市の算出方法></p> <p>国の二一ズ調査は0～5歳以下家庭で量の見込みを算出しているが、戸田市では小学生まで利用状況の実績に基づいて、0～小学生までの推計児童数で算出している。過年度実績30年度の利用率（2.7%）に推計年度の児童人口を乗じる方法とした。</p> <p>※利用率(2.7%)は30年度の0～小学生までの実人口 17,041 人で算出している</p>		

<国の算出方法>

（年間延べ利用者数：人日）

	量の見込み					過年度実績			
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全市	11,143	10,687	10,649	10,682	10,842	648	642	558	456

（戸田市の算出方法）30年度の利用率 2.7%×推計児童数

	量の見込み				
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
全市	475	472	470	469	469
確保方策	2,880	2,880	2,880	2,880	2,880
差異	2,405	2,408	2,410	2,411	2,411

6 地域子育て支援拠点事業

制度における事業の概要	乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業。		
対象者	0～2歳		
算出方法	根拠	国の手引きに基づいて算出	調査（就学前） 問 17、問 19
	<p>問 17（地域子育て支援拠点事業の利用状況）で「1. 地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過したり、相談をする場」（を利用している）と回答した者の人数と、問 19 地域子育て支援拠点事業の利用意向）で、「1. 利用していないが、今後利用したい」と回答した者の人数を、回答者全体の人数（問 17 または問 19 無回答の人数を除く）で割り利用意向を算出し、家庭類型別児童数にかける。</p> <p><戸田市の算出方法> 28 年度～30 年度の実績値から求めた年平均減少率(7.94%)を基に量の見込みを算出し、二一ズ調査結果との平均をとった。</p>		

<国の算出方法>

（年間延べ利用者数：人日）

	量の見込み					過年度実績			
	2 年 度	3 年 度	4 年 度	5 年 度	6 年 度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
全 市	180,024	179,352	178,680	177,852	177,384	99,411	117,723	110,842	101,593

（戸田市の算出方法）

	量の見込み				
	2 年 度	3 年 度	4 年 度	5 年 度	6 年 度
全 市	108,584	104,922	101,531	98,332	95,492
確保方策	108,584	104,922	101,531	98,332	95,492
差異	0	0	0	0	0

7 利用者支援事業

制度における事業の概要	子ども又はその保護者の身近な場所で、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等の情報提供及び必要に応じ相談・助言等を行うとともに、関係機関との連絡調整等を実施する事業。		
対象者	子ども保護者（主に就学前）		
算出方法	根拠	独自算出	調査（就学前） 問
	<p>★ニーズ調査及びワークシートからは算出されないが、計画書には掲載する事業</p> <p><戸田市の算出方法></p> <p>27年度～30年度の配置数を基に量の見込みを算出した。</p>		

（配置数：か所）

	量の見込み(基本型・特定型)					過年度実績			
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全市	2	2	2	2	2	1	2	2	2
確保方策	2	2	2	2	2	1	2	2	2
差異	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（配置数：か所）

	量の見込み(母子保健型)					過年度実績			
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全市	1	1	1	1	1	0	1	1	1
確保方策	1	1	1	1	1	0	1	1	1
差異	0	0	0	0	0	0	0	0	0

8-1 子育て短期支援事業（ショートステイ事業）

制度における事業の概要	保護者の疾病等の理由により家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童について、児童養護施設等に入所させ、必要な保護を行う事業。		
本市事業名	ショートステイ	提供区域	全市
対象者	0～5 歳児		
算出方法	根拠	国の手引きに基づいて算出	調査（就学前） 問 26
	<p>問 26（泊りがけの預け先）に回答した者のうち、「②短期入所生活援助事業（ショートステイ）を利用した（児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業）」、「⑤仕方なく子どもだけで留守番をさせた」と回答した者の割合を算出する。</p> <p><戸田市の算出方法> 27年度～30年度の実績値を基に量の見込みを算出</p>		

<国の算出方法>

（年間延べ利用者数：人日）

	量の見込み					過年度実績			
	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
全市	0	0	0	0	0	96	20	54	128

（戸田市の算出方法）

	量の見込み				
	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
全市	75	75	75	75	75
確保方策	252	252	252	252	252
差異	177	177	177	177	177

8-2 子育て短期支援事業（トワイライトステイ事業）

制度における事業の概要	保護者が就業等で帰宅が遅くなり、子どもの夜間の養育が困難な場合に児童福祉施設で児童を預かる事業。		
本市事業名	トワイライトステイ	提供区域	全市
対象者	小学校 1 年生～6 年生		
算出方法	根拠	国の手引きに基づいて算出	調査（就学前）
	<p>問 24（不定期事業の利用意向）に回答した者のうち、「1. 利用したい」を選択した者の割合を算出する。調査結果から①一時預かり、②ファミリー・サポート・センター、③トワイライトステイの年間平均利用日数を算出し、家庭類型別児童数に利用率と平均利用日数を乗じて見込みを算出する。</p> <p><戸田市の算出方法> 27年度～30年度の実績値を基に量の見込みを算出</p>		

<国の算出方法>

（年間延べ利用者数：人日）

	量の見込み					過年度実績			
	2 年 度	3 年 度	4 年 度	5 年 度	6 年 度	27年度	28年度	29年度	30年度
全市	87,768	85,524	85,213	85,196	85,837	478	312	364	282

（戸田市の算出方法）

	量の見込み				
	2 年 度	3 年 度	4 年 度	5 年 度	6 年 度
全市	359	359	359	359	359
確保方策	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400
差異	2,041	2,041	2,041	2,041	2,041

9 乳児家庭全戸訪問事業

制度における事業の概要	生後4か月までの乳児のいる全ての家庭を訪問し、乳児及び保護者の心身の状況や養育環境等を把握し、子育てに関する情報提供並びに助言支援を行う事業。		
対象者	生後4か月までの産婦または乳児		
算出方法	根拠	独自算出	調査（就学前）問
	<p>★ニーズ調査及びワークシートからは算出されないが、計画書には掲載する事業</p> <p><戸田市の算出方法> 各年度の0歳推計児童数とする。</p>		

（訪問件数：人）

	量の見込み					過年度実績			
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全市	1,589	1,523	1,518	1,513	1,510	1,496	1,475	1,399	1,363
確保方策	1,589	1,523	1,518	1,513	1,510				
差異	0	0	0	0	0				

10 養育支援訪問事業

制度における事業の概要	養育支援が特に必要な家庭に対して、その居宅を訪問し、養育に関する指導・助言等を行うことにより、当該家庭の適切な養育の実施を確保する事業。		
対象者	養育支援が特に必要な家庭		
算出方法	根拠	独自算出	調査（就学前）問
	<p>★ニーズ調査及びワークシートからは算出されないが、計画書には掲載する事業</p> <p><戸田市の算出方法></p> <p>27年度～30年度の実績値を基に量の見込みを算出</p>		

（訪問件数：人）

	量の見込み					過年度実績			
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全市	2	2	2	2	2	2	2	0	2
確保方策	2	2	2	2	2				
差異	0	0	0	0	0				

11 妊婦健康診査事業

制度における事業の概要	妊婦の健康の保持及び増進を図るため、妊娠に対する健康診査として、①健康状態の把握、②検査計測、③保健指導を実施するとともに、妊娠期間中の適時に必要に応じた医学的検査を実施する事業。		
対象者	全ての妊婦		
算出方法	根拠	独自算出	調査（就学前） 問
	<p>★ニーズ調査及びワークシートからは算出されないが、計画書には掲載する事業</p> <p><戸田市の算出方法> 各年度の0歳推計児童数とする。</p>		

（対象者数：人）

	量の見込み					過年度実績			
	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全市	1,589	1,523	1,518	1,513	1,510	1,596	1,512	1,489	1,432
確保方策	1,589	1,523	1,518	1,513	1,513				
差異	0	0	0	0	0				